

# 成長続くパワーデバイスメーカーの戦略分析 ご案内

制作：株式会社キャップインターナショナル

新刊レポートのご案内

2018年12月10日

## 成長続くパワーデバイスメーカーの戦略分析 2019年版

本書は「成長続くパワーデバイスメーカーの戦略分析 2019年版」というタイトルで、今後とも安定した成長が見込まれるパワーデバイス市場に於いて、市場拡大を牽引すると目される企業にスポットを当て、その事業構造や今後の成長要因等を分析することにより、多くの参入企業の事業展開に参考となる情報とインプリケーションの提供を目的として制作しています。

収録した企業は、インフィニオン、テキサス インスツルメンツ、オン セミコンダクター、STマイクロエレクトロニクス、ロームの5社で、いずれも最先端のパワーデバイスを開発・生産し事業を拡大させています。現状パワーデバイス市場は、従来から続く省エネの要請に加え、新市場の成長（再生可能エネルギーや電気自動車、データセンターの急増など）、また新興国の近代化の進展に伴う耐久消費財の需要拡大等が続くと予想され、安定した高い成長がもたらされると考えられます。こうしたことから、参入企業は生産設備の近代化や拡大、新製品の開発に邁進しています。そうした状況の中で、収録した企業の今後の事業展開や戦略は様々なインプリケーションを与えてくれるものと思います。

どうか、本書を十分にご活用される事を願っております。

- 👉 Infineon、Texas Instruments、ON Semiconductor、STMicroelectronics、ロームの5社を収録。 **2018年12月13日発売**
- 👉 A4版109ページ 冊子＋本編PDF入りCD付、定価：180,000円（消費税別）

# 目 次

1. 調査対象各社の全社概要	4		
1-1. Infineon Technologies	4	2-2. Texas Instruments	51
1-1-1. 全社業績	4	2-2-1. パワーデバイス事業の概要	51
1-1-2. 部門別業績	5	2-2-2. 製品別売上動向	52
1-1-3. 地域別業績	7	2-2-3. アプリケーション/事業部門別動向	54
1-1-4. 生産体制	9	2-2-4. 開発/投資動向	55
1-2. Texas Instruments	12	2-2-5. 販売/カスタマー動向	57
1-2-1. 全社業績	12	2-2-6. パワーデバイス事業戦略	58
1-2-2. 部門別業績	13	2-3. ON Semiconductor	61
1-2-3. 地域別業績	15	2-3-1. パワーデバイス事業の概要	61
1-2-4. 生産体制	16	2-3-2. 製品別売上動向	62
1-3. ON Semiconductor	18	2-3-3. アプリケーション/事業部門別動向	64
1-3-1. 全社業績	18	2-3-4. 開発/投資動向	65
1-3-2. 部門別業績	19	2-3-5. 販売/カスタマー動向	66
1-3-3. 地域別業績	21	2-3-6. パワーデバイス事業戦略	68
1-3-4. 生産体制	22	2-4. STMicroelectronics	71
1-4. STMicroelectronics	25	2-4-1. パワーデバイス事業の概要	71
1-4-1. 全社業績	25	2-4-2. 製品別売上動向	72
1-4-2. 部門別業績	26	2-4-3. アプリケーション/事業部門別動向	75
1-4-3. 地域別業績	28	2-4-4. 開発/投資動向	77
1-4-4. 生産体制	29	2-4-5. 販売/カスタマー動向	78
1-5. ローム	32	2-4-6. パワーデバイス事業戦略	81
1-5-1. 全社業績	32	2-5. ローム	85
1-5-2. 部門別業績	33	2-5-1. パワーデバイス事業の概要	85
1-5-3. 地域別業績	34	2-5-2. 製品別売上動向	86
1-5-4. 生産体制	36	2-5-3. アプリケーション/事業部門別動向	88
2. パワーデバイス事業動向	38	2-5-4. 開発/投資動向	90
2-1. Infineon Technologies	38	2-5-5. 販売/カスタマー動向	92
2-1-1. パワーデバイス事業の概要	38	2-5-6. パワーデバイス事業戦略	94
2-1-2. 製品別売上動向	38	2-6. パワーデバイス5社の今後のシナリオ	98
2-1-3. アプリケーション/事業部門別動向	41	2-6-1. パワーデバイスの事業規模	98
2-1-4. 開発/投資動向	44	2-6-2. パワーデバイスのアプリケーション別売上	101
2-1-5. 販売/カスタマー動向	45	2-6-3. 生産戦略	103
2-1-6. パワーデバイス事業戦略	46	2-6-4. 新素材への参入	104
		2-6-5. 今後のシナリオ	106

各社、全社概要とパワーデバイス事業の2部構成で分析。  
 分かりやすく見やすい構成で、表は85表、図は99図とデータも盛りだくさん。  
 2章6では5社比較による分析もっています。

2-4-  
 ・ST.  
 ・2つ  
 ・パワー  
 事業観

2-3-6. パワーデバイス事業戦略  
 ・ONセミの2017年の全社売上高に占める  
 ワーデバイスは、売上の半分近くを占め  
 ているが、パワーデバイス事業を主に引  
 いて平均の36.7%を下回っている。引  
 いているのである。  
 ・同社は、パワーデバイスの規模拡大を引  
 いてアチャイルド買収はこの目的に沿う引  
 いたが、フェアチャイルドの収益  
 性も高まっている。  
 ・このようなことを背景に、同社は同社  
 策を打ち出している。

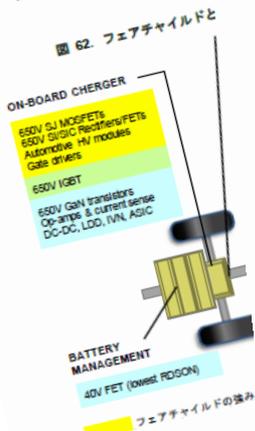
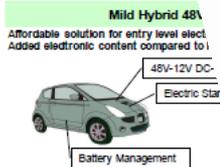
1.ADG (Aut)  
 ・ADGはA  
 組織で構成  
 2017年の成

(1) APG (Autom)  
 ・APGは、自動  
 全ての自動車用  
 分野にも強みを引  
 ・パワーデバイス事

1.自動車用  
 ・同社は、自動車用では従来の延長引  
 ソリューションを根拠に拡張を引

① ハイブリッド/電気  
 ・ハイブリッドでは、  
 バッテリー管理引  
 コンバータ、トラクシ  
 ション用ICにも注力引

図 76.



② SiC事業の強化

・同社は2016年にSiCダイオードを引  
 出荷を開始した。SiC MOSFETの20  
 倍の出荷規模に達している。

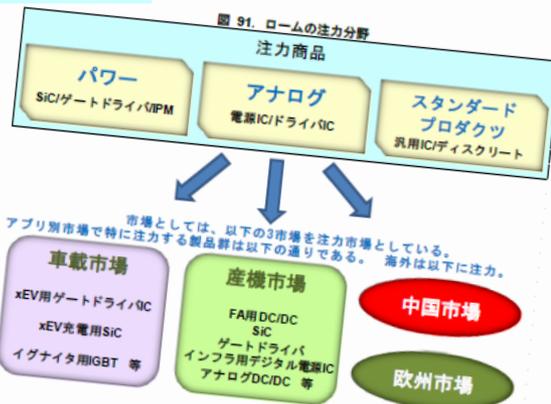
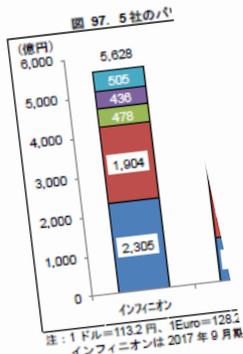
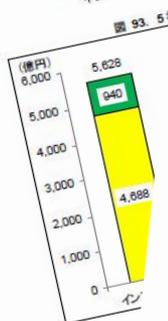
・TI以外の4社のパワーアナログの売上は、TIと大きな差があるもの引  
 ではない。STMの2017年のパワーアナログの売上は、TIの約1/3引  
 ONセミのパワーアナログの売上は、TIの約1/2引  
 同売上もONセミのパワーアナログの売上引

2-6. パワーデバイス5社の今後のシナリオ  
 2-6-1. パワーデバイスの事業規模  
 ・近年、環境問題が引  
 再生可能エネルギーへの切り替わの必要性が引  
 現のための必要不可欠なキーデバイスと引  
 ・半導体各社は、パワーデバイスの重要性を引  
 力は例外なくパワーデバイス事業の強化を引  
 デバイス業界を牽引すると引  
 ・5社をパワーデバイスの売上で引  
 る。2017年のパワーデバイスの売上は、インフ  
 ンフィニオンは、パワーデバイスを中心  
 中心の専攻構造である。またONセミとロー  
 ナログよりも大きく、逆にSTMはパワー  
 電機、米系ではADI (アナログデバイス)  
 電機、米系ではADI (アナログデバイス)

2-6-2. パワーデバ  
 ・5社のアプリケー  
 見込まれる自動車と  
 わせた構成比は、高  
 ローム50%となる。  
 加え、各種機器の電  
 っている。  
 ・この2つのアプリケー  
 構成比が高い傾向に引  
 ニオンとSTMは、2  
 ルの構成比になっている。

表 76. 5社のパワーデバイス

デバイス	売上(億円)
パワーデバイス	4,888
アナログ	5
合計	5
注: 1ドル=113.2円, 1ユーロ=128.2円	



・同社の2015年3月期から2019年3月期(見込み)までの売上増分は573億円である。ア  
 プリケーションとカスタマ別が異なる同社独自の区分では、車載機器用の増分が450億円、そし  
 て産業機器が147億円を占めている。また別の見方では、プラス成長は日系その他民生の143  
 億円である。逆に減少となっているのは、AV機器用等が占める日系デジタル家電と海外系民生  
 ・車載市場と産業市場が注力市場とされているのは当然である。また海外市場は、これら2つのア  
 プリケーションの海外向けに加え、増減分構成ではマイナスとなっているが売上規模の大きい海  
 外系民生を含めた海外市場の拡張が同社の成長戦略に不可欠となっている。さらに家電機器が主  
 体の日系その他民生用も中国を始め海外での売上が中心となっている。また、欧州向けは、売  
 上の規模は小さいものの車載用及び産業用アプリケーションでSiCの拡張が期待されるため、拠点  
 の拡充を始め積極的な拡張策を取っている。

表 75. 2014年度と2018年度見込時点での売上増減分

製品	2015年3月期	2019年3月期	増減分
日系デジタル家電	355	259	-96
日系その他民生	799	942	143
海外系民生	1,087	1,007	-80
産業機器	399	546	147
車載機器	987	1,446	459
合計	3,627	4,200	573